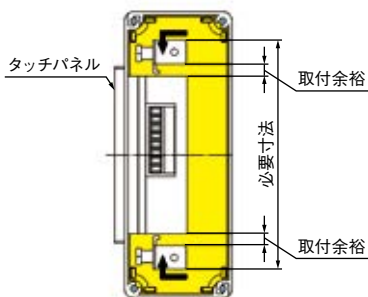


## 1 ボックスのタイプ選定について

タッチパネル用ボックス (TBOX) を選定する場合、一般的には以下のような項目に注意が必要になります。

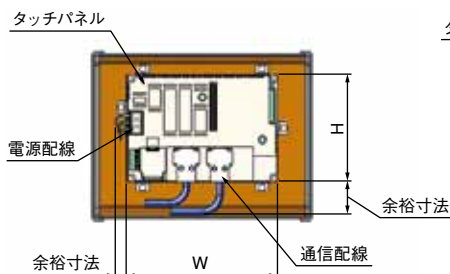
### 取付余裕

タッチパネルの取付には、下図のような取付金具タイプが一般的です。見落としがちですが、この金具取付にはタッチパネル本体の外形以上の余裕が必要になります。



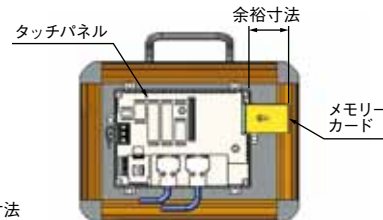
### 配線余裕

タッチパネルへの配線の際は、電源、通信、非常停止などのスイッチを併設する場合、これらに加えてI/O線が接続されます。この接続場所はタッチパネルのメーカーや形式によって様々ですが、本体より大きく余裕を取る必要があります。



### インターフェイス余裕

常設配線の余裕以外に忘れやすいケースとして、メモリーカードやUSBなどの抜き差し余裕の考慮です。お使いになるタッチパネルに合わせたインターフェイス余裕を見込んでボックスタイプや寸法を決める必要があります。



## 2 ボックス小型化について

SUS社製のTBOXはフリーサイズを全機種に取り揃えているため、タッチパネルボックスの小型化・軽量化にも最適です。しかしながら、以下の場合には問題が発生するケースも多く、動作保証は致しかねますので、ご注意ください。

- ・前述1.のような諸条件を十分に考慮せずに、タッチパネル本体寸法のみでボックス寸法を決定された場合。
- ・タッチパネルメーカー推奨の周辺機器との離隔距離を大きく逸脱した寸法の (小型化を図った) 場合。
- ・鉄箱と比較し、アルミボックスははるかに良好な放熱特性を持ちますが、使用環境によってはスリットや換気ファンなどの冷却機構をご検討ください。

## 3 背面の開口仕様について

TBOX全9機種の内、D65、D85、D105、F350、F352は背面が開口する仕様になっています。

開口機構には、コインロックにて取り外せるパネルと、ネジ止めによって取り外せるパネルに加え、樹脂ヒンジによる簡易扉タイプがあります。いずれも、タッチパネルのメンテナンス用に開口する仕様で設計された機構ですので、扉部への機器搭載やボックス固定などによって負荷のかかる使い方はできません。

## 4 タッチパネル取付補強枠について

TBOX全9機種の内、D65とF350は小型タッチパネル (5インチ以下) 用に設計されており、軽量化のためパネル面の素材には1.0tのアルミが使われています。タッチパネルのタイプや5インチ以上の機種での取付に際して、1.0tパネルが変形し隙間が空くことがあります。このような場合に備えて鉄製補強枠をご用意がありますのでお問い合わせください。

## 5 モニターアームとの組み合わせについて

TBOXにモニターアームを組み合わせるご使用になる場合は、以下の通りご注意ください。

- ・ボックスの大きさやサイズによって、搭載したタッチパネル面の操作や非常停止スイッチの操作などにより、ボックスの揺れやたわみが大きく出てしまうケースがあります。
- ・予めこれらの組み合わせが明確に想定できる場合には、補強対策を施しますが、お客さまによって組み合わせられたケースでは別途ご相談ください。D65タイプにおいては、高強度の取付フレームをご用意しています。

## 6 SUS社製特殊複合ケーブルについて

1.での説明の通り、タッチパネルで大別して下記の3種の配線が必要になります。

- ・タッチパネル電源供給ケーブル
- ・タッチパネル⇄HOST通信用ケーブル
- ・非常停止等併設スイッチケーブル

これらは、互いに違う仕様のケーブルを要求するために、通常は3種類の (3本の) ケーブルを引き出す必要があります。この状態をよりスマートに、より使い勝手を向上するために、SUSでは1本にまとめた特殊複合ケーブルをご用意しました。(P166ご参照) 但し、ご使用に当たっては、以下の条件がありますのでご注意ください。

タッチパネル用電源ケーブル部…DC24V-1.5A以下/AC100V電源使用不可  
1m単位で設定